

## 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

## 1 調査目的

全国的な子どもの体力の状況を把握・分析し、体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、改善を図る。

また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査概要

## (1) 調査対象

小学校第5学年児童、中学校第2学年生徒

## (2) 児童生徒に対する調査

○児童生徒に対する調査

・実技に関する調査（8種目）

【小学校】握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、50m走、長座体前屈、ソフトボール投げ、20mシャトルラン

【中学校】握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、50m走、長座体前屈、ハンドボール投げ、20mシャトルラン（中学校は持久走も可とされているが、福岡市は持久走なし）

・質問紙調査（運動習慣・生活習慣、食習慣等）

○学校に対する調査

・質問紙調査（子どもの体力向上に係る取組み等）

## (3) 調査期間

令和3年4月から7月までとされているが、福岡市においては新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、令和3年度の新体力テストの実施について、以下のように対応した。

- ・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置期間中の調査実施なし
- ・上体起こし、20mシャトルランについては、各学校において感染症対策を講じてもなお、感染のリスクが高い場合には、それらの実施を見合わせることも可能

## 3 調査結果の集計について

- ・各種目については、それぞれの種目を実施した児童生徒の調査結果を集計
- ・体力合計点については、8種目全てを実施した児童生徒\*の調査結果を集計

※8種目全てを実施した児童生徒数

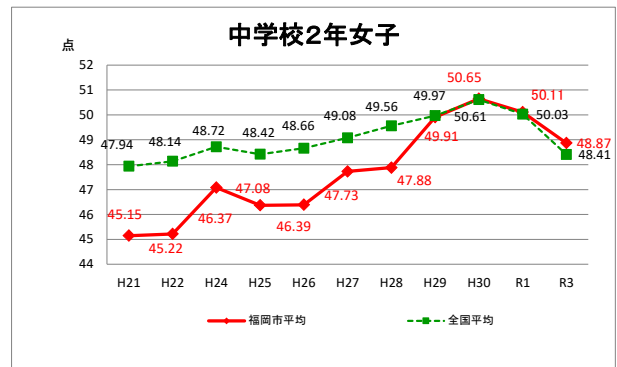
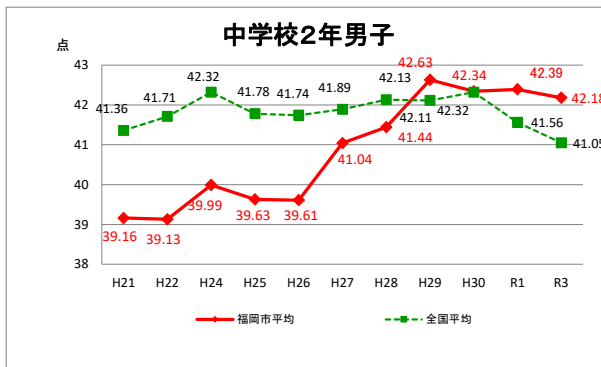
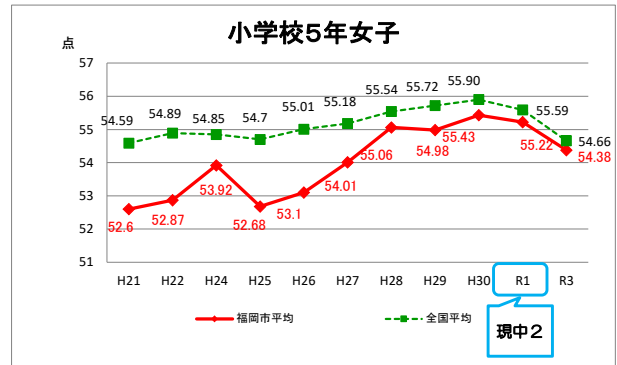
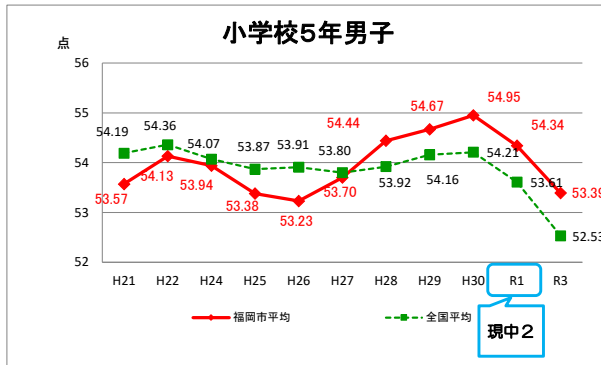
小5男子…1,410名／約7,100名      小5女子…1,405名／約6,800名

中2男子…4,383名／約6,600名      中2女子…4,207名／約6,100名

#### 4 調査結果の概要について

##### (1) 実技に関する調査の結果（体力合計点の推移について）

（1種目 10点満点、10点×8種目＝80点、得点基準は男女で異なる）



※平成 22 年度、24 年度は抽出調査（小学校 35 校、中学 19 校）

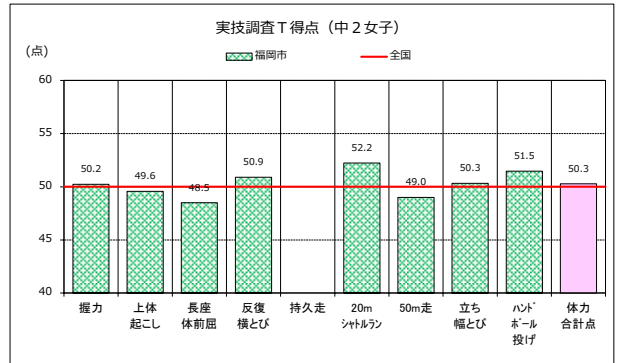
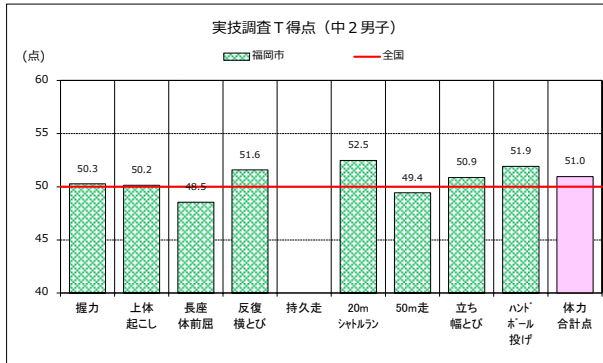
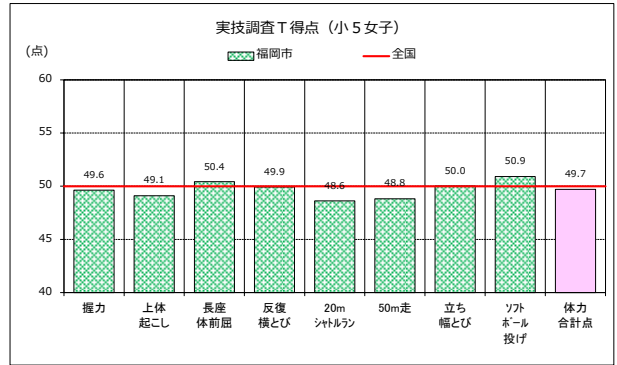
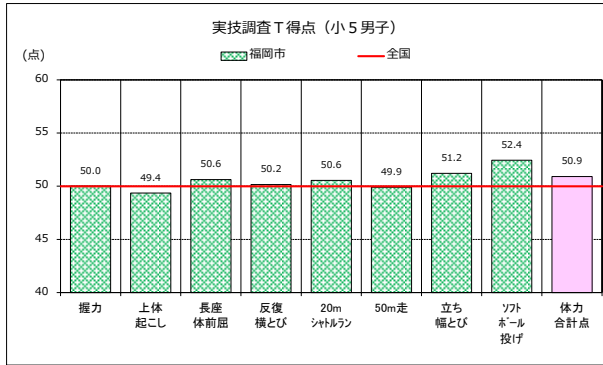
※平成 23 年度、令和 2 年度は調査中止

	男子	女子
小5	全国平均よりわずかに高い +0.86 ポイント	全国平均とほとんど差が見られない -0.28 ポイント
中2	全国平均より高い +1.13 ポイント	全国平均とほとんど差が見られない +0.46 ポイント

±0.5 ポイント未満の幅 「ほとんど差が見られなかった」      ±0.5～1 ポイント未満 「わずかに高かった、低かった」      ±1 ポイント以上 「高かった、低かった」      **スポーツ庁 全国体力テストコメントの基準**

- ・小5 男子、中2 男女は、全国平均を上回り、小5 女子は全国平均を下回っている。
- ・小5 男子は5年連続、中2 男子は4年連続、中2 女子は3年連続で全国平均を上回っている。
- ・小5、中2 ともに、令和元年度調査と比べて、全国平均と同様に体力合計点が、低下している。
- ・小中学校ともに、平成 29 年、平成 30 年をピークに、近年は下降傾向にある。

③種目別の全国との比較 ※T得点：全国の各学年・男女の平均値を50として、各種目を比較しやすくしたもの

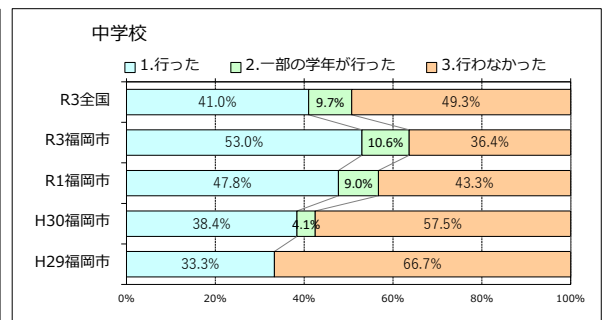
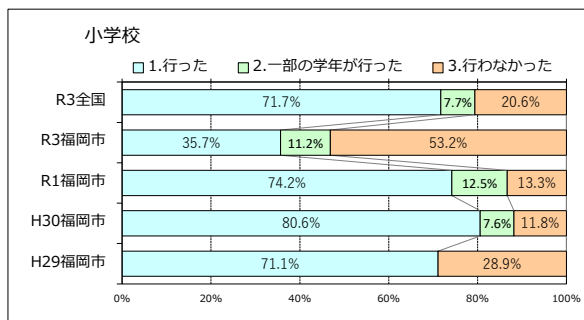


- ・小5男子は、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げの4種目で全国平均を上回っている。
- ・小5女子は、長座体前屈、ソフトボール投げの2種目で全国平均を上回っている。
- ・中2男子は、握力、上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とび、ハンドボール投げの6種目で全国平均を上回っている。
- ・中2女子は、握力、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とび、ハンドボール投げの5種目で全国平均を上回っている。

(2) 質問紙調査の結果について

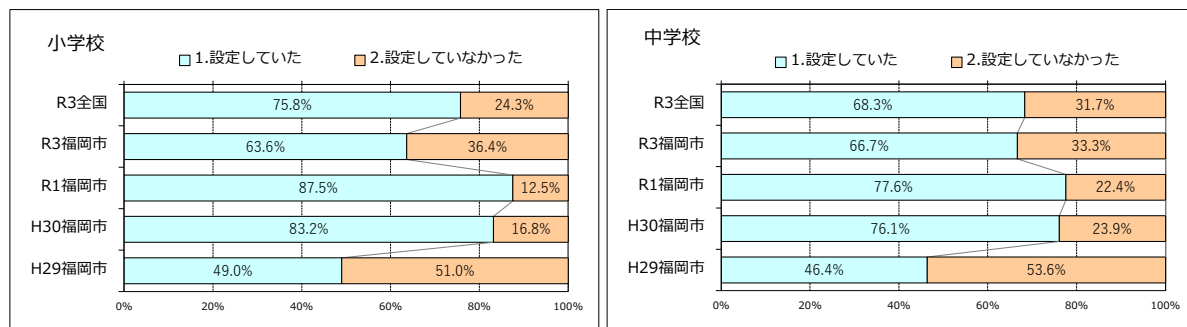
①学校質問紙

○体育授業以外での、体力・運動能力の向上に係る取組み



- ・取組みを実施している学校の割合について、小学校は全国平均を下回り、中学校は全国平均を上回っている。
- ・取組みを実施している学校の割合について、令和元年度と比較して、小学校は減少し、中学校は増加している。

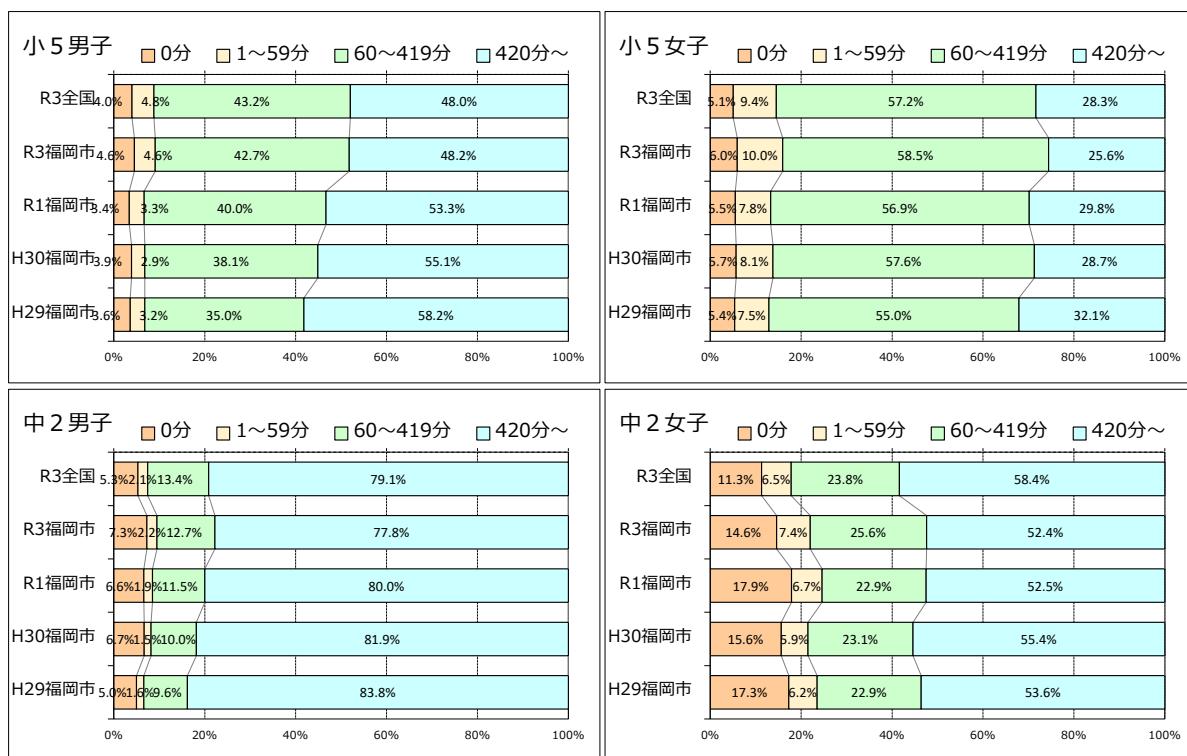
## ○学校全体の体力・運動能力向上の目標設定



- ・ 目標設定を行った学校の割合は、小中学校ともに、全国平均を下回っている。
- ・ 目標設定を行った学校の割合について、小中学校ともに、令和元年度と比較して減少している。

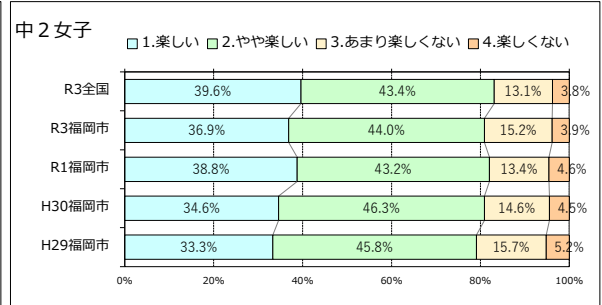
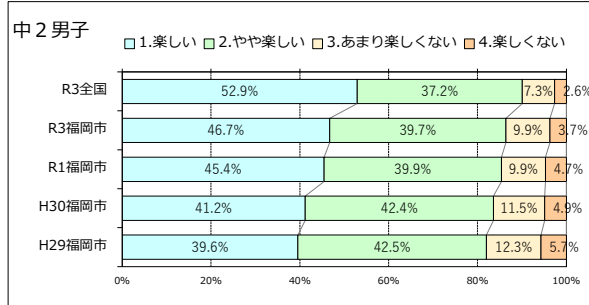
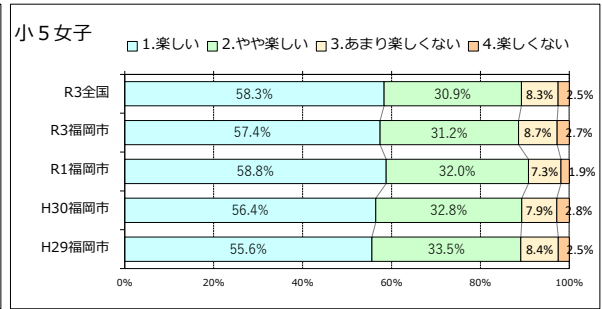
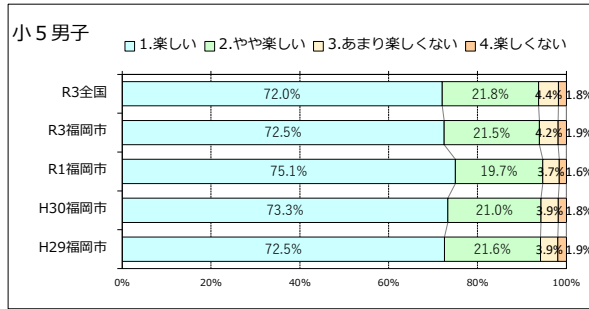
## ②児童生徒質問紙

### ○1週間の総運動時間



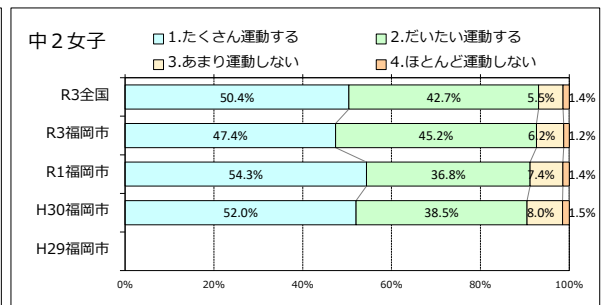
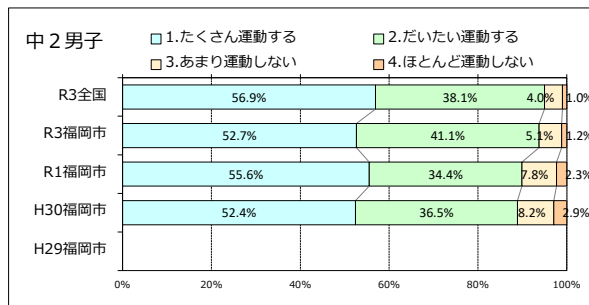
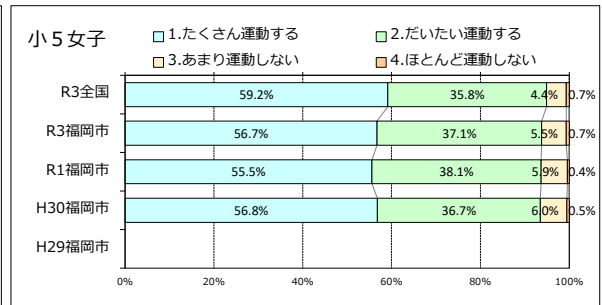
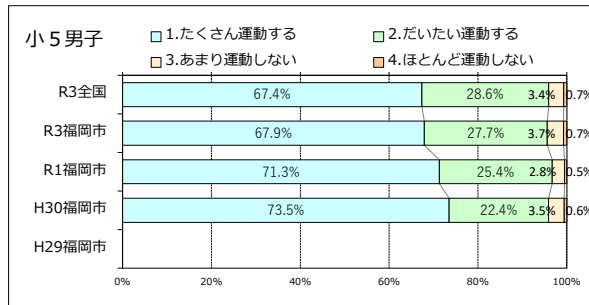
- ・ 「0分」と「1～59分」を合わせた児童生徒の割合について、小中学校の男女ともに、全国平均を上回っている。
- ・ 小学校では、「420分以上」の児童の割合について、令和元年度と比較して減少している。
- ・ 中学校では、「420分以上」の生徒の割合について、男子において、令和元年度と比較して減少している。

## ○体育授業の楽しさ



- ・体育授業の楽しさの肯定的回答率（「楽しい」「ややたのしい」の合計）について、小学校は、全国平均と同程度、中学校は、全国平均を下回っている。
- ・「楽しい」の割合がについて、小5男女、中2女子は、令和元年度と比較して、減少し、中2男子は増加している。

## ○体育授業での運動量 ※平成29年度は、同質問項目なし



- ・「たくさん運動する」の割合について、小5男子は全国平均を上回り、小5女子、中2男子、中2女子は全国平均を下回っている。
- ・「たくさん運動する」の割合について、小5女子は、令和元年度と比較して、増加し、小5男子、中2男子、中2女子は減少している。

### (3) 新型コロナウイルス感染症に関する質問項目

#### ①学校質問紙

##### ○新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在との比較

		1.運動やスポーツに意欲的でない児童生徒が増えた	2.積極的に運動する児童生徒が増えた	3.体力が低下している児童生徒が増えた	4.肥満の児童生徒が増えた	5.その他	6.変化を感じない
小学校	全国	17.6%	11.9%	72.4%	19.5%	2.8%	18.9%
	福岡市	21.7%	14.7%	84.6%	19.6%	2.1%	9.8%
中学校	全国	19.2%	18.0%	74.6%	12.5%	3.7%	16.4%
	福岡市	30.3%	22.7%	78.8%	10.6%	1.5%	12.1%

- ・全国平均と比較すると、小中学校ともに、「変化を感じない」の割合が下回り、その他の項目において全国平均を上回っている。
- ・小学校では、その他の項目の中でも、「体力低下している児童生徒が増えた」について、全国平均との差が最も大きい。
- ・中学校では、その他の項目の中でも、「運動やスポーツに意欲的でない児童生徒が増えた」について、全国平均との差が最も大きい。

#### ②児童質問紙調査

##### ○コロナ前と比べた運動やスポーツをする時間

			1.時間が増えた	2.時間が減った	3.変化はない
小学校	5年男子	全国	29.2%	41.5%	29.3%
		福岡市	28.1%	46.6%	25.3%
	5年女子	全国	28.3%	39.0%	32.7%
		福岡市	25.3%	44.5%	30.3%
中学校	2年男子	全国	31.8%	40.4%	27.9%
		福岡市	35.7%	38.0%	26.3%
	2年女子	全国	27.1%	41.2%	31.7%
		福岡市	30.8%	40.3%	28.9%

- ・小学校では、「時間が増えた」「変化はない」の割合が全国平均を下回り、「時間が減った」の割合が全国を上回っている。
- ・中学校では、「時間が減った」「変化はない」の割合が全国を下回り、「時間が増えた」の割合が全国を上回っている。
- ・小中学校ともに、「時間が減った」の割合が最も多くなっている。

## 5 今後の課題

- ・体力合計点について、全国同様に令和元年度に比べ低下しており、その要因として、1週間の総運動時間が減少や新型コロナウイルス感染症の影響などが考えられるため、今後は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めつつも、①体育授業の工夫・改善、②日常的な運動習慣の形成につながる取組みについて、児童生徒の実態に照らして、着実に継続的な取組みを進めていく必要がある。
- ・令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各学校において「体力向上推進プラン」の作成を実施していなかったことから、各学校における体力向上の目標設定や取組みの推進が十分に行うことができなかったものと考えられ、今後は、各学校における「体力向上推進プラン」の作成及び活用の徹底を図るとともに、教育委員会としても、児童生徒が自ら身体を動かしたり、運動の楽しさを感じたりできるような学校での継続的な取組みについて支援・促進していく必要がある。

## 6 取組みの方向性

### (1) 各学校での取組み

#### ○体育授業の工夫・改善

- ・運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の育成を目指した体育授業の実施
- ・1単位時間において、適切な運動量を確保した体育授業の実施
- ・ICT機器を効果的に活用した授業の工夫・改善の実施

#### ○日常的な運動習慣の形成につながる取組み

- ・日頃から運動やスポーツをすることの大切さを児童生徒に伝えるとともに、1週間の総運動時間に着目した、体育授業外時間の取組みの充実
- ・運動の楽しさを実感し、工夫しながら運動する習慣の定着につながるような、家庭等への働きかけ

### (2) 教育委員会としての取組み

#### ○体力向上につながる研修

- ・新体力テストの実施に関する説明会において、実技テスト実施の留意点等の説明に加えて、体力向上につながる具体的な取組み事例を紹介するなど内容の充実
- ・体力向上のための指導者研修会において、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、福岡市の体力等の状況について説明するとともに、大学教員による体力向上に係る講演の実施

※令和3年度…令和4年1月31日にオンラインで開催

講師：鹿児島大学 教育学部 講師 與儀 幸朝 氏

演題：コロナ禍における児童生徒の体力向上について

#### ○体力向上推進委員会の充実

- ・年間活動計画の見直しを行い、組織的・計画的な取組みを推進

#### ○体力向上の取組み好事例の全市での共有

- ・体力向上の取組みの充実・継続を図り、運動好きの児童生徒を増やすとともに、体力向上につながった学校の取組みに関する情報発信の充実